

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『瞬考 メカニズムを捉え、仮説を一瞬ではじき出す』 山川 隆義 著

かんき出版 269頁 1,600円(税別)

著者は数多くの経験を有するコンサルタントです。現代はAIの時代であり、いかに課題を発見し、よい仮説を生み出すかが特に重要であるとして、仮説を瞬間に生み出す方法について書いています。

まず、

「AI時代に人間が仮説構築力を鍛え、課題発見力を高めるためには、時間軸を長く取り、範囲を広く取ってものを考えることが要求される」としています。時間軸を長く取るとは、その日の課題、目の前の問題だけを追いかけてはいけないうことです。

ではどうすればいいのか？そのためには、「さまざまなことを知っておかなければならない。すなわち教養の深さが大きく問われる。教養の深さは、瞬考においても、AIに指示を出すためにも肝要である」

仮説についても、

「仮説が湧くのは、教養が深いからであり、そうでなければ、仮説は湧かない。

指示が出せるのは、仮説が湧くから。仮説が湧かなければ、指示は出せない。

AIが加速度的に進化していく世界において、仮説構築力があるかどうか、死線を分けるだろう。」

と言っています。

では、どうすれば仮説構築力を身に着けることができるでしょうか？

「少しの情報をインプットしただけで、あらゆる仮説が湧く。

極めて少数だが、そのようなコンサルタントも存在する。」

そのような人たちは、「一を聞いて十を知るといことわざを体現したような存在」です。では、どうすれば、「一を聞いて十を知る境地に至ることができるのか。

それは、「一を聞いて十を調べることである。

5年、10年と『一を聞いて十を調べる』ことを継続する。

その努力によって累積したインプットは、大きな『知の資産』となる。

頭の中に、多数の事例や事象を累積して溜め込んで『知の資産』を作り、長期の時間軸を意識して思考すれば、仮説は一瞬ではじき出せる」のだと著者は主張します。

そして、著者は、何をインプットすればいいのかを教えてください。「何をインプットするかは、どのような立場にあるかによって異なるが、ビジネスパーソンの場合、世の中にどのような会社が存在するか、どのようなビジネスをやっているかをインプットすることから始めてみるといい。インプット手段としてお勧めなのが、『四季報丸暗記』だ。と言います。

四季報とは『会社四季報』のことで、東洋経済新報社から四半期に一度刊行されている情報誌で、上場企業の企業情報、株価、株主構成や財務状況などを一冊にまとめているものです。著者は、これを丸暗記することを勧めているのです。著者自身、駆け出し時代に「四季報写経」と呼びながら四季報を10年分、表計算システムに入力したそうです。それがずいぶん役に立ち、仮説が湧く人間になれたと主張しています。

仮説を一瞬にはじき出す瞬考の能力を身につけるには、インプット、インプット、インプット、瞬考の土台となるのが「インプット」なのです。

さて、インプット、何から始めましょうか？四季報は本屋さんにいけば簡単に見つかります。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

仮説とは

前項で仮説構築力をいかにして身に着けるかについて見てみました。しかし、そもそも「仮説」とはいったいなんなのでしょう？ネットで探してみました。

—問い:「他社と差別化した商品をどうすればつくれるか？」

答え:「過去の成功事例から、ニッチなジャンルを開拓する」という仮の答えを出したとします。これはひとつの仮説とも言えます。——

「ニッチなジャンルを開拓すれば、差別化した商品をつくれるだろう」、つまり、仮説とは「こうしたら、こうなるのでは」という考えです。

仮説ですから、はずれることもあるでしょう。しかし、仮説ははずれてもメリットがあります。

それはこういうことです。

——「仮説をせっかく立てても、的外れのものでは意味がない」と考えてはいませんか。しかし、仮説は、それが「外れた」ときにも大きな効果を発揮するようです。

「仮にデータを集めた結果、想定した答えと合わなかった場合でも、なぜ想定した答えと違うのかと考えることで、新たな答えへの発想が展開します。」——

これを簡単にいうとこうなります。

「新規顧客獲得のために〇〇すればいいだろう」と仮説を立てて実行したがダメだった。なぜダメだったかを考えて、新しい仮説を立てて実行するということです。

「こうしたら問題解消、課題克服」という仮説を立てることを意識してやってみましょう。まずは、課題は何かでスタートします。それから、仮説を立てるわけです。

(参考:<https://studyhacker.net/mba-globis-hypothesis-thinking>)

岡山の景気<日銀岡山より

コロナ後、いったい景気はどうなっているのでしょうか？岡山の景気を日銀の資料(2023年8月4日 日本銀行岡山支店 岡山県金融経済月報)から見ていきます。悪くはないと言っているようです。

★概況

県内景気は、海外経済の回復ペース鈍化等の影響を受けつつも、ペントアップ需要の顕在化等に支えられて、緩やかな回復が続いている。(ペントアップ需要:景気後退期に購買行動を一時的に控えていた消費者の需要が、景気回復期に一気に回復すること)

最終需要をみると、個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、サービス分野を中心に緩やかに増加している。企業の業況感が改善するもとで、設備投資は増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。(最終需要:消費・設備投資・公共投資・輸出入といった各経済主体(家計・企業・政府・海外部門)の支出のこと。生産過程に再投入されない支出であることから、「最終」需要と呼ばれる)

県内主要製造業の生産は、海外経済の回復ペース鈍化等の影響から、弱めの動きが続いている。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まっており、雇用者所得は緩やかに改善している。

★金融 県内実質預金、県内貸出は、ともに緩やかに増加している。貸出約定平均金利をみると、ストックベースでは緩やかな低下傾向が続いているが、新規実行ベースでは下げ止まっている。